勤労者通信大学コース紹介

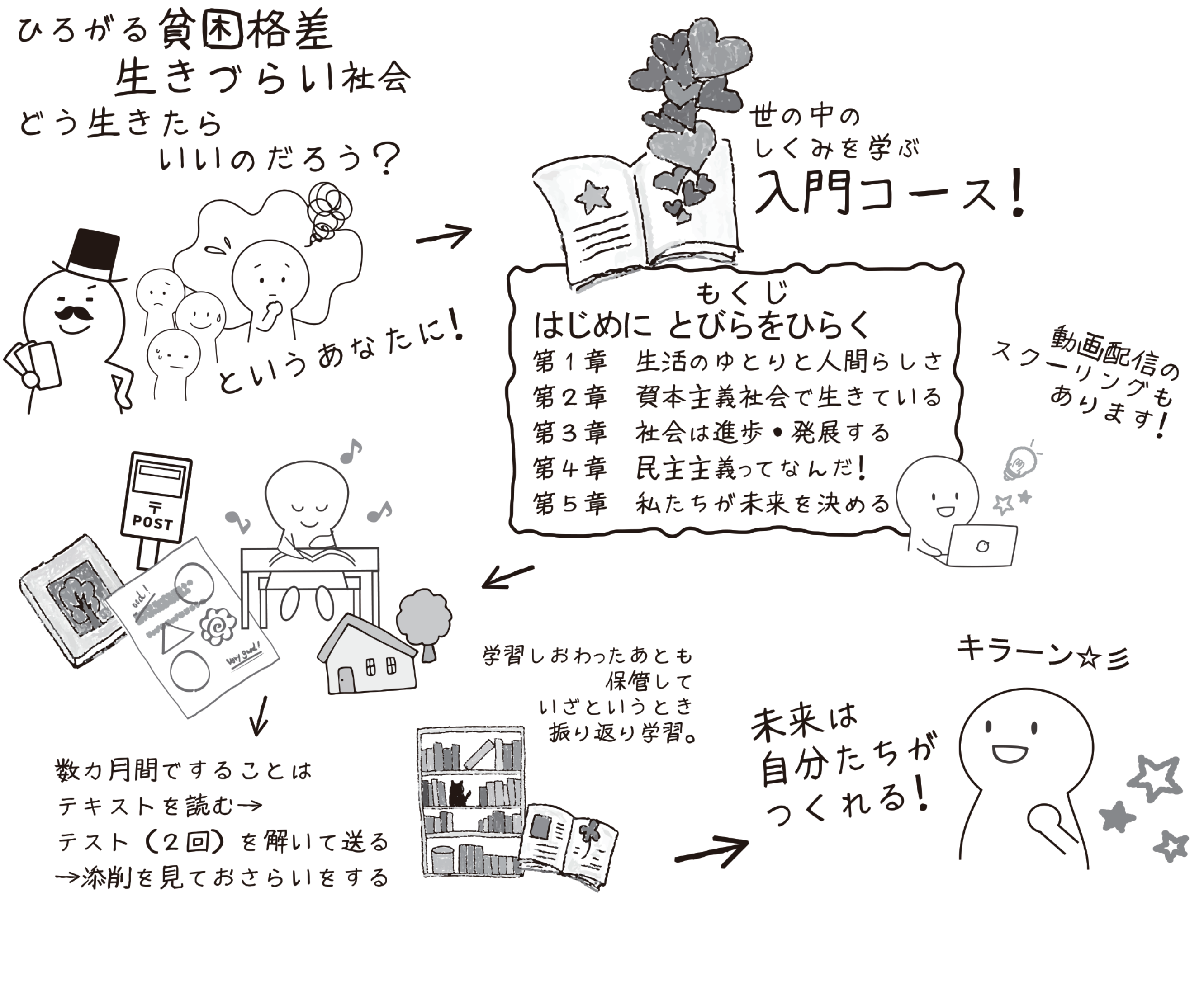
**私らしく生きるため、社会のしくみを
科学的にとらえる学びの入口**

入門コース

受講料……8,000 円
テキスト……A5 判　176 ページ
通信……２回発行（３か月に１回）
テストと添削……２回（３か月ごとに１回提出）
標準学習期間……６か月（４月開始の場合、４～９月）
オンラインスクーリング、受講生用ウェブサイトあり

情勢に対応し、部分改訂

生き方と社会についてともに考え、あきらめない生き方を切り拓くのが入門コースの学びです。
「誰もが人間らしく生きられる社会」実現の手がかりを！



扉ひらく入門コースの学び

長久 啓太
岡山県学習協事務局長・入門コース教科委員会責任者

●社会の仕組みが見えてくる

自分らしく、豊かに生きていきたい。人間であれば誰もが願うことではないでしょうか。しかし今、社会のさまざまな分野で「行き詰まり」を感じることが多くなっているように思います。物価上昇に追いつかないどころか横ばいの賃金水準、ケア労働者の処遇は改善されず、政府の気候危機対策は本気さがまるでない。進む少子化、職場も人手不足、地方は深刻な人口減少。貧困は広がる一方、防衛費の異常な膨張と戦争準備は急ピッチで…。見通しが持ちにくい社会で、気持ちが晴れ晴れとすることが少ない日々…。

そんな空気が社会を覆えば、１人ひとりの生き方も当然影響を受けます。自分のことでせいいっぱいで、他者や社会への無関心が広がっているのではないでしょうか。コスパ重視の資本主義の論理を１人ひとりが内面化し、なんでも損得勘定で考えてしまう…。

でも、社会の仕組みがみえたとき、違う選択肢、もっと別の考え方に出会うことができます。勤労者通信大学はそのよい教材になります。なかでも、入門コースはテキストもコンパクトで学びやすく、好評です。

テキスト冒頭『とびらをひらく』には、「大事なことは、現在の社会について、どんなしくみで、どんな動き方をしているのか、何が問題なのかを、自分の頭で学び分析できることです。『私らしく生きること』の前に立ちはだかるものの正体を知ることです。そのためには、知性をみがき、科学的にものごとを考える力を身につけていく必要があります。その後押しをするのが、この入門コースのテキストです」と書かれています。さらに 2025 年、入門コースは最新の情勢やデータにもとづき部分改訂され、さらに学びやすくなっています。

●学ぶことは楽しい。仲間と学ぶともっと楽しい

学習は人と組織を元気にします。新しいことを知るのって楽しいですし、自分のしている仕事や活動を違う角度から見直すことができたり、自分のものの見方が更新されます。そして、社会が構造として押しつけてくる「苦しさ」「息苦しさ」を、構造もふくめ学びあうことで、気持ちがラクになることがあります。職場の仲間のたいへんさの背景がわかったり、今まで見えていなかったものが見えてきたり。気持ちのベクトルが変わると、がんばり方も変わります。

そして、ぜひ、仲間と一緒に学んでください。ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英さんは「仲間との議論はほんとうに有益でした。たとえば何か疑問が生じたとき、先生に質問したとすると、正しい答えが返ってくればそれで終わりです。でも、その疑問について友人どうしで議論したりすると、みんなの考え方が縦横に広がっていくんです。その過程で相手に教えたり、教えられたりの切磋琢磨ができるし、いままで気づかなかった新しい発見が生まれることもあります」と述べられています（『「フラフラ」のすすめ』講談社）。

そんな学びの面白さを、ぜひ身近な仲間と一緒に味わいたいですね。みなさんの受講を、心よりお待ちしています。

入門コースは、生き方と社会のしくみを科学的にとらえる、勤労者通信大学の学習への新しい入り口として、はじめて社会科学を学ぶ方から好評をいただいています。１人でも読みすすめられるような工夫をしていますが、より学習効果が高いのが集団学習です。コンパクトなテキストなので読み合わせもしやすく、討論もはずみます。

とびらをひらく

第１章　生活のゆとりと人間らしさ
第１節　自分の生活を大事にする
第２節　働くことについて
第３節　人間らしく生きるために

第２章　資本主義社会で生きている
第１節　資本主義社会とはどんな社会か
第２節　資本主義社会の運動と矛盾
第３節　現代の資本主義社会の特徴

第３章　社会は進歩・発展する
第１節　人間社会の歴史とその発展
第２節　人びとのたたかいと社会発展の力
第３節　両性の平等をめぐる歴史と現在

第４章　民主主義ってなんだ！
第１節　民主主義はどのように生まれたか
第２節　日本国憲法の歴史的意義
第３節　職場と地域のなかの民主主義

第５章　私たちが未来を決める
第１節　現代日本におけるせめぎ合い
第２節　資本主義を乗り越える社会を展望する
第３節　私が変わる、社会も変える

第１章　生活のゆとりと人間らしさ

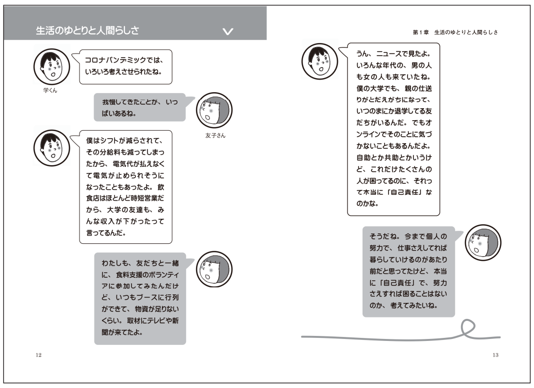
第１節　自分の生活を大事にする

1　生活するということ

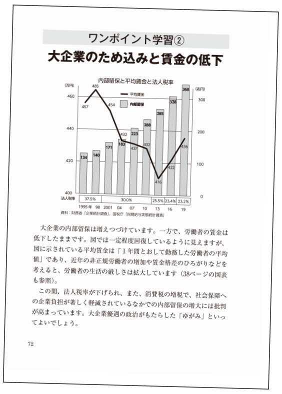
●毎日いろいろなことをしている
朝起きて、「今日はなーんにもすることがないな」という日、みなさんにはあるでしょうか。そんな日はめったにないのではないでしょうか。
私たちの毎日は、「すること」「しなければならないこと」がたくさんあります。時間に常に追われる生活をしている人も多いでしょう。毎日いろいろなことをしている。それが現代社会の生活の特徴です。
いろいろなことをしている。そのなかに、「しなければならないこと」があります。まず、多くの人は生活のために仕事をしています。お金がないと生活できないからです。生活のなかで、仕事の占める割合はとても大きいものがあります。
仕事は人間の体が活動的な時間帯（日中）に多くおこなわれ、体力や精神力をたくさん使います。目覚めているあいだの持ち時間のかなりを仕事にとられます。仕事によっては夜働く人もいます。生活と仕事のバランス。これは常に悩みのタネなのではないでしょうか。
仕事以外には、何をしているのでしょうか。身体のメンテナンスをするために欠かせない睡眠やリラックスタイム、健康や衛生を保つためのお風呂・歯磨き・衣服の洗濯、食事もエネルギー補充に不可欠です。食事は生活の楽しみでもあります。また心地よい生活を送るために、部屋の掃除・整理も大事です。好きな雑貨も生活に彩りを与えます。毎日のようにおこなう買い物も生活の一部です。テレビやネットをみて社会の動きを知る。携帯・スマホで交流したり情報を集める。ちょっとした移動には車やバス、電車、自転車などを使います。子どもがいる家庭では子育てにまつわるさまざまなこと。介護が必要な方がいれば介護にまつわるさまざまなこと。教育、郵便、金融、医療……。生活とは実に多面的であり、「しなければならないこと」がたくさんあります。

●奪われたくない「私の人権」
人間の生活にとって切り離せないのは、なんといっても「文化」です。生活の質や充実度を決める大きな要素です。人間は基本的な衣食住にも文化をとり入れながら生活しています。生活それ自体が「文化」をつくりだしているとも言えます。学問、芸術、本・雑誌・漫画、教養、音楽、趣味、娯楽、スポーツ……。生活が文化的になればなるほど、「私らしい生活」となるのではないでしょうか。
人間関係も生活の重要な要素です。家庭での団らん、親族とのつきあい、地域・社会関係、友だちとの交流、恋愛、そしてペットも。余暇がたっぷりあることは、生活を楽しむために必要なことです。散歩、遊び、旅行。ぼんやりすること、ごろごろすることも大事です。労働組合や、さまざまな活動が生活の一部になっている人もいるかと思います。
このように、生活とは、たくさんの要素や関係性のもとに成り立っています。生活は、１人ひとりの人生や幸福追求のステージとなります。
2011年３月11日に起きた東日本大震災では、多くの人命と同時に、津波による被害で多くの人の生活が根こそぎ喪失しました。福島の原発事故も同様です。その人の記憶が詰まっている、あたりまえの日常生活・日常風景が奪われるということは、人間にとってとてつもなく辛いことです。だから、公的な支えが必要なのです。生活再建というのは、そんなに簡単なものではありません。積み重ねが生活をつくるからです。

14　15


生活のゆとりと人間らしさ
第１章　生活のゆとりと人間らしさ

12　13


ワンポイント学習②

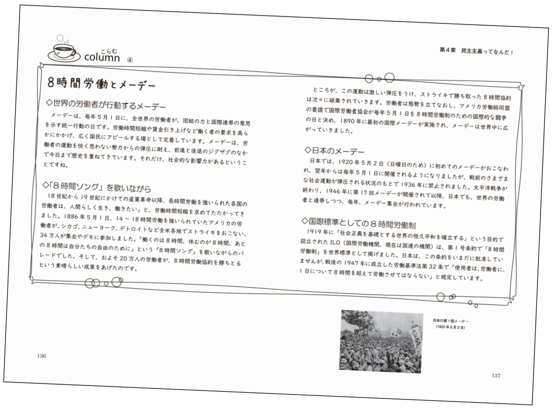
大企業のため込みと賃金の低下

大企業の内部留保は増えつづけています。一方で、労働者の賃金は低下したままです。図では一定程度回復しているように見えますが、図に示されている平均賃金は「１年間とおして勤務した労働者の平均値」であり、近年の非正規労働者の増加や賃金格差のひろがりなどを考えると、労働者の生活の厳しさは拡大しています（38ページの図表も参照）。
この間、法人税率が下げられ、また、消費税の増税で、社会保障への企業負担が著しく軽減されているなかでの内部留保の増大には批判が高まっています。大企業優遇の政治がもたらした「ゆがみ」といってよいでしょう。

72

ZOOM を活用したオンラインスクーリングを開催しています。

※右の QR コードで、過去のスクーリング動画がご覧いただけます。


column ④
第４章　民主主義ってなんだ！

8時間労働とメーデー

◇世界の労働者が行動するメーデー
メーデーは、毎年５月１日に、全世界の労働者が、団結の力と国際連帯の意思を示す統一行動の日です。労働時間短縮や賃金引き上げなど働く者の要求を高らかにかかげ、広く国民にアピールする場として定着しています。メーデーは、労働者の運動を快く思わない勢力からの弾圧に耐え、前進と後退のジグザグのなかで今日まで歴史を重ねてきています。それだけ、社会的な影響力があるということですね。

◇「８時間ソング」を歌いながら
18世紀から19世紀にかけての産業革命以降、長時間労働を強いられた各国の労働者は、人間らしく生き、働きたい」と、労働時間短縮を求めてたたかってきました。1886年５月１日、14～18時間労働を強いられていたアメリカの労働者が、シカゴ、ニューヨーク、デトロイトなど全米各地でストライキをおこない、34万人が集会やデモに参加しました。「働くのは８時間、休むのが８時間、あとの８時間は自分たちの自由のために」という「８時間ソング」を歌いながらのパレードでした。そして、およそ20万人の労働者が、８時間労働協約を勝ちとるという素晴らしい成果をあげたのです。
ところが、この運動は激しい弾圧をうけ、ストライキで勝ち取った８時間協約は次々に破棄されていきます。労働者は態勢を立てなおし、アメリカ労働総同盟の要請で国際労働者協会が毎年５月１日を８時間労働制のための国際的な闘争の日と決め、1890年に最初の国際メーデーが実施され、メーデーは世界中に広がっていきました。

◇日本のメーデー
日本では、1920年５月２日（日曜日のため）に初めてのメーデーがおこなわれ、翌年からは毎年５月１日に開催されるようになりましたが、戦前のさまざまな社会運動が弾圧される状況のもとで1936年に禁止されました。太平洋戦争が終わり、1946年に第17回メーデーが開催されて以降、日本でも、世界の労働者と連帯しつつ、毎年、メーデー集会が行われています。

◇国際標準としての８時間労働制
1919年に「社会正義を基礎とする世界の恒久平和を確立する」という目的で設立されたILO（国際労働機関、現在は国連の機関）は、第１号条約で「８時間労働制」を世界標準として掲げました。日本は、この条約をいまだに批准していませんが、戦後の1947年に成立した労働基準法第32条で「使用者は、労働者に、１日について８時間を超えて労働させてはならない」と規定しています。

日本の第１回メーデー（1920年５月２日）

136　137

入門コース　受講生の感想

●学校で学ぶことの内容でためになる

組合でこうした学習があるけど受講してみないか？と声掛けがあり､受講してみました。大人になってから学ぶ機会もなく、学校でも学ぶこともない内容でしたので、大変ためになりました。

（埼玉、埼玉土建、40 代 ）

●疲れている仲間にも「楽しいよ」と誘いたい

私は昨年から労働組合に勤めています。労働者の権利とは何か？一から学びたいという気持ちと、組合の専従者として、今後社会に向けてどんな働きかけが必要なのかを知りたい！という思いを持ち、受講を決意しました。

正直なところ、若者は日々の生活・仕事で疲れて、集会などに参加する気力も持てない状況なのかなと感じてはいますが、テキストを読んでいき､「勤通大の学習楽しいよ」「世間の見えないことが見えるようになる」と広げていきたいですし、若者の学習の場がふえていけるように働きかけていきたいです。　（長崎、組合専従、30 代）

●学習会に来てみたら楽しい！

交渉の場に参加することがあるので、労働条件など詳しく知りたいと思い受講しました。

職場の若い人たちは､組合に参加して交渉しても、何も変わらないと思っている人が多く残念です。変えていきたいです。

学習会に参加する人は、面白いといって受講してくれるので、参加する人を大事にしたい。参加者を増やしたい。　（岡山､自治体職員、30 代）

●民主的経営も学習がなければ

労組の動きもよくわからないので、学びたいと思いました。組合と経営陣の共通した社会的要求についても、言葉だけ先行し、仲間で学ぶ場がないのが一番問題だと思う。　（東京、医療従事者、20 代）

●物事の変化と発展を知り希望を感じる

組合運動にかかわって、10 数年が経ちますが、人に説明するのはまだまだ足りず、日々学習が必要だと感じています。執行部でみんなで学ぼうということになり、受講しています。スクーリングの前後にテキストを読んでみんなで励ましあっています。

唯物論や、弁証法など、難しくなかなか理解ができませんが、物事はじっとそのまま動かないのではなく､「変化、発展」するという見方は希望を感じます。ぼーっとしたり、ひとりでものを考える「時間」を持つことの重要性を感じています。労働時間の短縮は重要だと思います。（50 代、岡山、女性 ）

●地方議員仲間や地元の方々と読み合わせ

毎月１回、３時間学習しています。講師ひとりに学生３人。１章ごとに読み合わせて、学生が思うこと､感じたこと､職場のこと等､発言しあっています。

生活のゆとりと人間らしさ。資本主義社会で生きている、社会は進歩・発展すると学習して、また文字を見て読んでいくこと、新鮮です。そしてみんなの考えを聞いて、自分の考えを聞いて、自分の思いを話し、深められるこの時間がとても楽しく充実しています。　（埼玉､地方議員､60 代）

勤労者通信大学
〒 113-0034　東京都文京区湯島 2-4-4 平和と労働センター 5 階
TEL 03-5842-5644 FAX 03-5842-5645
WEB　http://www.gakusyu.gr.jp/kinro.html
E-mail　kin@gakusyu.gr.jp